

## 編集 後記

第60巻9号は総説、原著、公衆衛生活動報告、研究ノート、資料が各1編ずつ掲載されています。水質管理手法、介護保険導入前後の変化、介護予防への取り組み、電力不足への対応、たばこ税・価格引き上げの影響、と広範なテーマが取り上げられています。近年、根拠に基づいた医療（Evidence Based Medicine, EBM）という言葉が浸透し、研究デザインによって研究のランク付けが行われる風潮が認められます。中でも、無作為化ランダム試験（Randomized Controlled Trial, RCT）はEBMにおける根拠のランクでは最上位とされており、RCTでない研究はレベルが低いという評価を行う方も見受けられます。そもそもEBMは臨床現場における診療行為の選択について検討することを主要な目的とした臨床疫学から始まったものです。そのため、今回本誌で取り上げたテーマのように公衆衛生上重要であってもRCTの実施が事実上不可能なテーマについての研究をEBMの基準で評価することが適切とは限りません。

また、公衆衛生は行政とのつながりも深く、各種の事業など業務を通じて集積された膨大なデータを有しています。最近には既に手元に存在する膨大なデータを活用して有益な知見を発見することに対してビッグデータという言葉が用いられるようになり、既存データの有効活用の重要性が認識されています。コンピュータの性能向上

次号予告（第60巻・第10号）	
論 壇	多施設共同疫学研究における中央事務局業務実態の類型化と今後の標準化にむけて .....玉腰暁子, 他
原 著	MSM (Men who have sex with men) における HIV 抗体検査受検行動と受検意図の促進要因に関する研究.....塩野徳史, 他
研究ノート	「都市部版 地域包括支援センターへの情報提供のチェックシート」作成の試み .....野中久美子, 他
資 料	東日本大震災後の宮城県における避難所感染症サーベイランス.....金 美賢, 他

や統計学や疫学理論の進歩によって現実社会における様々な制約を考慮した上で各種のバイアスの影響を除去可能なデータ分析手法が開発されたこともあわせ、公衆衛生領域の研究にも新たな流れが発生しています。編集委員会は査読委員の方々と協同してこのような流れに対応し、わが国の公衆衛生の発展に寄与するつもりです。会員の皆様からのより多くの投稿をお待ちしております。  
(谷原真一)

## ご案内 混合研究法国際シンポジウム

### ～量的アプローチと質的アプローチの統合～

日 時：2013年10月20日（日）9：00～17：55

場 所：The Grand Hall（東京・品川駅より徒歩3分）

参加費：10,000円

使用言語：日本語または英語（同時通訳を行います）

主な内容：

混合研究法概説

Michael D. Fetters, MD, MPH, MA（ミシガン大学教授）

健康科学領域における混合研究法；米国の視点から

Benjamin F. Crabtree, PhD（ラットガース大学教授）

グローバル人間学における混合研究法；日本の視点から

Junko Otani, D.D.S., M.P.H., M.S., Ph.D.（大阪大学大学院准教授）

教育領域における混合研究法；ブルネイの視点から

Paryono Paryono, Ph.D.（東南アジア教育大臣機構職業技術センター副部長）

混合研究法の過去、現在、未来；世界的な視点から

John W. Creswell, Ph.D.（ネブラスカ大学教授）

主 催：混合研究法国際シンポジウム実行委員会

共 催：静岡家庭医養成プログラム、財家庭医療学研究所、ミシガン大学、東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野

お問い合わせ：運営事務局（㈱インターグループ内）

TEL：03-5549-6909 E-mail: mixedmethods@intergroup.co.jp

詳 細：http://mixedmethods.umin.jp/（なるべく事前参加登録をお願いします）

日本公衆衛生学会認定専門家のポイントが付与されます（7ポイント）